

第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
2015年6月13日(土)～14日(日)
@つくば国際会議場(茨城県つくば市)

ワークショップ 23	
タイトル	地域医療連携ワークショップ ～ケースで学ぶ在宅医療との連携～
日時	6月13日(土) 16:20-18:40
企画責任者	柴田 綾子 (公募企画)
定員	48名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>急速に少子高齢化が進むなか、日本では、2025年にいわゆる「団塊の世代」が全て75歳以上となる超高齢社会を迎える。</p> <p>これからの医療の持続可能性を高めるためには、限りある地域の社会資源を効率的かつ効果的に活用していく必要があります。急性期医療から在宅医療、そして介護サービスに至るまで、互いの理解を深めながら、それぞれの役割を發揮していかなければなりません。</p> <p>日本医師会 JDN では、実際のケースをもとに参加者が意見を交換することで、地域包括ケアの重要性を理解し、多職種の連携について互いに学び合うワークショップを企画しました。</p>	
<p>【概要】</p> <p>ここでは、実際のケースをもとに、急性期病院から在宅医療への移行、在宅医療をささえる地域の医療資源の活用に関してワークショップ形式で参加者とディスカッションを進めていきます。</p> <p>厚労省において2025年問題を担当している高山義浩先生と、前任地の長寿医療研究センターにおいて在宅医療支援病棟の立ち上げ・運営に携わり、現在は三重県で家庭医療を実践されている洪英在先生をファシリテーターとして招き、参加者の理解を行政と臨床の両面からサポートいただく予定です。</p>	